WRITING 2017

インターナショナル カリグラフィー シンポジウム | 関西セミナーハウス 京都 2017年11月2日-8日

Ewan Clayton | Tom Kemp | Manny Ling | Izumi Shiratani











シンポジウム運営チームより

インターナショナル カリグラフィー シンポジウムは、イギリスのサンダーランド大学内、国際カリグラフィー研究センター(IRCC)の主催で、隔年開催されている国際的なイベントです。

今回のシンポジウムでは、IRCCはNPO法人ジャパン・レターアーツ・フォーラム (J-LAF、東京)と密に連携し、2017年11月2日(木)から8日(水)まで京都の関西セミナーハウスを会場として開催することとなりました。イギリス国外での開催は、前回2015年のブリュージュ(ベルギー)に続き2度目となります。

今回は筆の可能性を探ることをテーマに、あらゆるレベルのカリグラファーに役立 つものとなる心躍るワークショップをご用意しています。この静かで美しい環境が、 皆さんの作業を一段と瞑想的なアプローチへと導いてくれることでしょう。クラスは 午後早めに終わり、教室で独自の作業を続ける時間があります。オプショナルの地元 ッアーもご用意しています。

毎回このシンポジウムは多くの国から参加者が集い、共に学び、教えあい、交流する 素晴らしい機会となっています。この国際的なカリグラフィーイベントへの皆さまの ご参加を、心よりお待ちしております。

2017年2月 IRCC and J-LAF

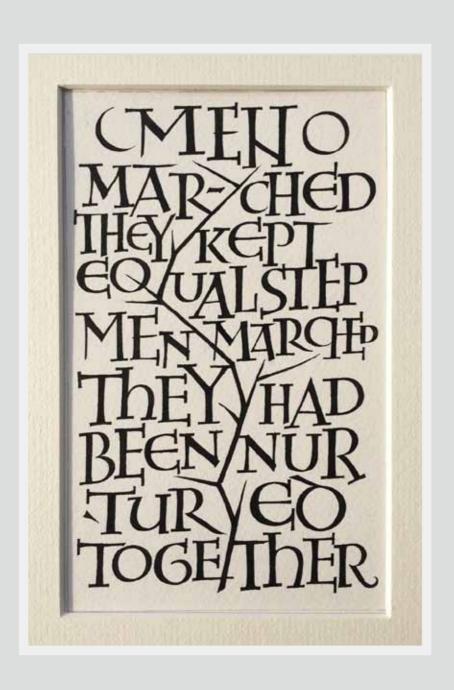




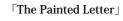


セミナーハウス内にある能舞台。ワークショップ会場のひとつとして使われます。

[3]



コアン・クレイトン EWAN CLAYTON 〈イギリス〉



カリグラフィーの西洋の伝統には、ペンや筆で直接書かれた伝統的な文字と共に、塗られた文字や描かれた文字が常に含まれています。このクラスでは、鉛筆や筆を使って文字を描き、ペイントする4通りの方法を取り上げ、多くのストロークから形作られる文字を作成します。このコースはディヴィッド・ジョーンズとマイケル・ハーヴィなどの作品からインスピレーションを得ています。



ユアン・クレイトンについて

私は、初心者から経験者まで、あらゆるレベルの知識と技術を持つ仲間に教えることを楽しむカリグラファーです。安心して楽しめる、居心地の良い学習環境をお約束できます。このコースでは、ローハンプトン大学でカリグラフィーを教えた私の長い経験だけでなく、近年の、レディング大学と、ニューヨークとサンフランシスコのクーパーユニオンでのタイポグラフィー教育課程講師として得た経験も生かします。私は、サンダーランド大学デザイン学科の教授であり、ロンドンにあるロイヤル・ドローイング・スクールの正講師です。私たちがどのように想像して文字の形を組み立てるのか、その相互の関係性に興味を持っています。

ユアン・クレイトンに関する詳細はこちらから:

http://www.ewanclayton.co.uk/





[4]





|6|

トム・ケンプ **TOM KEMP** 〈イギリス〉

\lceil On the Edge of the Brush \rfloor

平筆(square-edged brush)は、およそ 2000 年前に古代ローマ帝国時代の掲示文字書き職人によって使われたのが始まりです。建物に大きな碑文を書くために、帝国のあらゆる所で使われました。手早く書かれたその文字は、後世に残すために大理石に彫られた後、鮮やかな赤でペイントされていました。

このヨーロッパの筆の伝統はほとんど知られていません。というのも現存する筆はひとつも無く、ペイントされた質の高い碑文が、ごく僅か残されているだけだからです。筆をどのように使って現代の西洋のタイプデザインとカリグラフィーの基礎である古典的な文字の形が作られたのか。それを解明する元となる彫り文字は、大部分が風化して摩耗したその形が残されているのみなのです。

私は、20世紀に出会ったエドワード・カティッチの独創的な見解を基にして、長期にわたりこの筆記用具の研究をしてきました。カティッチは、ローマ時代の文字を模写して再現を重ね、効率的な筆の動きを数々推測しました。また彼は、熟練したカリグラファーが平筆を使うと、他にどういうことができるかについてのヒントも私たちに与えてくれました。私は、彼の手法を明確にしようと努め、彼が提案した筆の動きを、平筆で実現可能な自然な形に関する、壮大な辞典に作り上げるべく改良しました。

このワークショップでは平筆の基本的な原理から、平ペンと比較して、平筆が持つ多くの自由度を知るところまでを学んでいきます。これにより、一見慣れ親しんでいる書体を再考することや、平筆がどの様にそれらの書体を変化させるのかを理解することができるようになります。さらに重要なことは、平ペンの場合に課せられる制約をほとんど受けずに、エドワード・ジョンストンによる正書法の考え方で求められる厳密さに満ちた新しい書体を、想像してデザインできることです。「カリグラフィー的」と私たちが言うものへの理解と受容を、平筆が広げてくれることが明確になればと願っています。

R



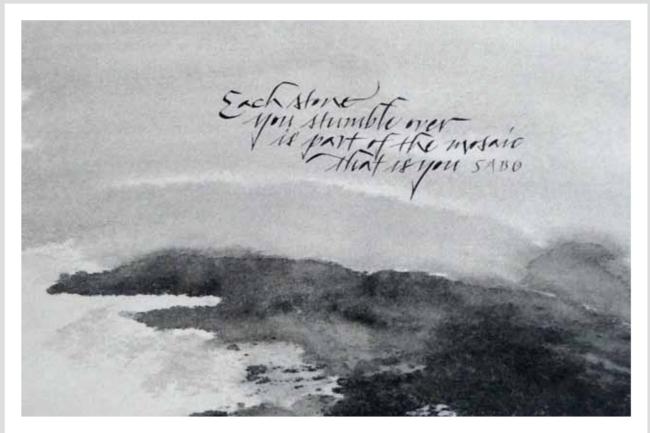
トム・ケンプについて

平ペンでカリグラフィーの練習を始めてから 4 年後、平筆が使われているところを 初めて目にしたのが 16 歳の時です。古い黒板の埃の中から、大きく黒々としたう ねるストロークが事もなげに現れてくるのを見たのは衝撃的な瞬間でした。その時、 私は間違った道具を使ってきたのだと実感しました! 平筆の柔軟性と精緻さが私を 魅了したのです。私は(当時) 非常に僅かな部数しか出回っていなかったエドワード・カティッチの本『The Origin of the Serif』を調べるべく図書館へと急ぎました。そして数年後私は、カティッチが再発見した「トレイジャン」の書体を教え始める ことにも、また、彼のアイデアに改良を加えて洗練することにも十分な自信を感じていました。それが 1999 年に出版された私自身の本『Formal Brush Writing』へと結びつきました。

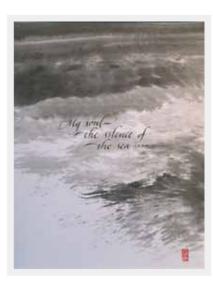
その後、現代カリグラフィー事業全体についての疑問を抱く長い期間がありました。 私はフォーマルな文字を書くことを止め、筆を「言語のないライティング」に使い 始めました。それは、私がそれまでに得てきた道具・画材・面に関するあらゆる知 識と、私自身の心身がその3つと一体化して動く方法を使った一種の抽象画でした。

今から5年前に、私はまた別の驚くほどカリグラフィー的なテクニックを学び始めました。それはろくろを使った陶磁器作りです。現在、私は磁器を作り、その表面に平筆で「書き」続けています。





マニー・リン MANNY LING 〈イギリス〉



Crossing Boundaries ■

このワークショップでは、西洋と東洋のカリグラフィー(書道)の取り組み方の関係を探求します。初めは墨を使った塗りのテクニックと西洋カリグラフィーのライティングを、筆と平ペンとを使って探っていきます。両方の文化の画材、プロセス、アプローチを組み合わせて、新しい形のカリグラフィー表現を創造します。

また、私がここ数年にわたって発展させてきた、筆や墨、伝統的和紙など東洋の書道用具を使った幾つかのテクニックも学んでいきます。絵画的背景の作り方や、米粉糊を使って作品を台紙にマウントする方法、そして薄い紙に平ペンや筆でカリグラフィーを書く際の補足的な準備なども学んでいきます。

私たちはこのワークショップで、カリグラフィー作品作りの新しい方法を発見 していきます。またさらに重要なことには、「解放」できること、そしてより 直感的、直接的にカリグラフィーをする能力も見つけていきます。

マニー・リンについて

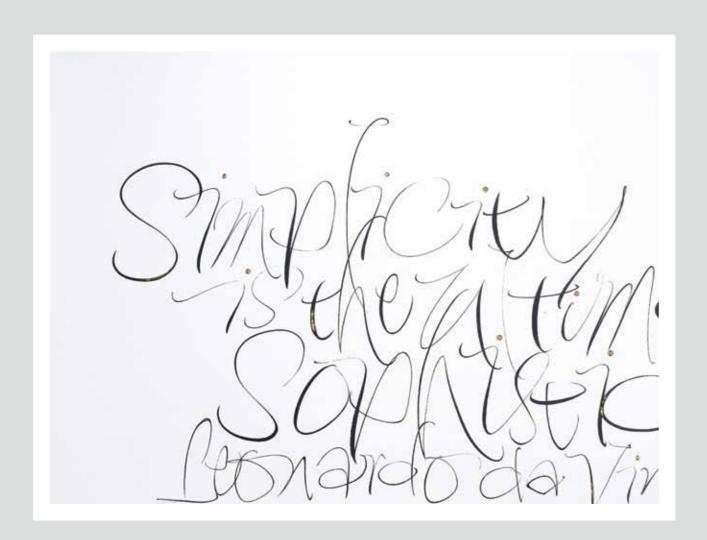
私は、イギリスのサンダーランド大学デザイン学科の上級講師です。紙媒体デザイン、カリグラフィー、レタリング、およびタイポグラフィーデザインを専門としています。イギリスのカリグラフィー会報誌『the EDGE』のデザイナー、デザイン編集者であり、様々なアーティストや展覧会および地域プロジェクトの出版物デザインを手がけています。

私の作品は世界各国で展示されており、多くの出版物に掲載されています。 2008 年に『Calligraphy Across Boundaries』(境界を越えたカリグラフィー)で博士号を取得。同年には、カリグラフィーの促進と発展への私の貢献に対して、Calligraphy and Lettering Arts Society 名誉フェローの資格が贈られました。IRCC のディレクターであり、数々の国際カリグラフィーシンポジウム、展示、出版のディレクションをしています。デザイナー、タイポグラファー。 Typographic Circles と Letter Exchange の正会員。2016 年秋には、柿衛文庫(兵庫県伊丹市)で開催された『ワーズワースと芭蕉:歩く詩人』展に出展。

西洋のアートとデザインを日常業務とする中国人であることは、私の生活に深く影響しています。自分の作品においては、コントラストと矛盾というテーマが私の心を強く捕らえています。手作りとデジタル、東と西、古いものと新しいもの、勢いと静寂。こういったテーマが私のカリグラフィー作品には多く見られます。

|8|





|10|

白谷 泉 IZUMI SHIRATANI

〈日本〉



「Finding Your Brush Lines」

アルファベットは主に線と面で構成されています。文字のスタイルによって線の質が強いもの、面の質が強いものがあります。そしてそこに、人間の手によって作り出される強弱、柔らかさ、そして感情が加わると、その文字に命が吹き込まれていきます。

カリグラフィーの考え方は個々で違いますが、カリグラフィーの文字を線の芸術と捉えたとき、さまざまな線質を知り、それを身につけていくことで、その表現の可能性は無限に広がります。そして、紙面をどのような線で埋めていくのか、どのような空間を作り上げるのかがとても大切です。

このコースではそれを筆で実現していきます。いろいろな側面から筆文字が持つ線の可能性を追求していきます。ステップバイステップでさまざまな線質を持つ文字や形を見て感じて、分析をしてみます。日本のかな文字が持つ繊細な筆ラインと西洋のアルファベットから生み出される筆ラインの動き方の違いなどを感じて、筆が自分の手や体とどうリンクしていくかを見つけだしていきます。

日本の伝統を誇る京都の地でこのような課題に取り組む事はとても意味がある ことではないかと感じています。少しずつアレンジを加えながら、自分が今ま で書いたことのない線との出会いと発見をしていきましょう。

白谷泉について

私は、幼少時代から書道をはじめ、大学在学中にカリグラフィーと出会いました。広告デザインに興味があり、卒業後は広告会社に勤務しましたが、そのかたわらでカリグラフィーへの興味も本格化していき、1999年カリグラフィー留学のためイギリスへ渡りました。Reigate School of Art and Design でカリグラフィー・紋章美術・装飾美術の HND を取得後、Royal Warrant を持つカリグラフィーオフィスに勤務。ここでの多忙な仕事経験は、カリグラフィーとの向き合い方を見つめ直すことが出来た貴重な時間でした。

今私は、筆で書くカリグラフィーの芸術性にとても惹かれています。カリグラフィーの芸術性と精神は文化の境界を超えると信じています。現在はコミッションワークの他、個人スタジオ、日本カリグラフィースクール、各地 WS において講師を務め、フリーランスとして活動しています。ロンドンにて個展開催。国内外の作品展多数出展および入選。英国カリグラフィー団体 CLAS のFellow(特別研究員)。NPO 法人ジャパン・レターアーツ・フォーラム (J-LAF) 理事。

白谷泉に関する詳細はこちらから:

http://www.izumi-shiratani.com/







会場の内外に、来訪者を愉しませてくれる 美しい風景があります。

24 時間対応のフロントと談話スペース



スタンダードルーム



シンプルトリプルルーム



別館和室「桜」





別館和室「もみじ」





北棟和室「竹」

|12| |13|

クラス定員

各クラスの定員は15名。先着順で受け付けます。

参加者のレベル

カリグラフィーを書くこと、そしてその道具や画材についてある程度基本的な ことを理解している参加者を想定したワークショップです。全く初めての方向 けではありません。

会場および宿泊施設について

関西セミナーハウス住所:

京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23

関西セミナーハウスウェブサイト: こちらをクリックしてください

http://www.kansai-seminarhouse.com/

部屋の詳細:

関西セミナーハウスウェブサイトから、 「施設のご案内」>「客室」ページを ご覧ください。 関西セミナーハウスは、京都市内北部の美しい環境の中にあります。モダニズム建築様式の本館、100年の歴史を刻む日本家屋の別館、日本庭園にある能舞台「豊響殿」、茶室「清心庵」で構成されている、日本クリスチャン・アカデミーの研修宿泊施設です。修学院、曼殊院からも近く、のどかな景色が楽しめる散歩コースもあります。

このシンポジウムは、この施設全体を貸し切りで使用してワークショップとイブニングレクチャーなどを行います。施設内にはスナック類のミニ販売所とソフトドリンク、ビールの自動販売機があります。またフロントでは喫茶のサービスも行っています。

食事は食堂でのサービスとなります。もし食事に特別な配慮が必要な場合は、 どうぞお知らせください。

他にもフリー Wi-Fi、洗濯機、24 時間対応のフロントデスクが利用でき、自由 に散策できる広い敷地があります。

会場内の宿泊施設には、洋室と和室があります。洋室は2人部屋と3人部屋で、全室浴室とトイレ付きです。全て相部屋でのご利用となり、1人部屋のご希望はお受けすることができません。どうぞご了承下さい。和室は布団をご用意しており、6名から10名の相部屋となります。

ご友人などグループで参加される場合で宿泊部屋の同室を希望される方は、申 込み時にその旨お伝え下さい。できるだけご希望に沿うようにいたします。 宿泊部屋は、南棟、北棟、別館の3箇所に分かれています。

南棟

スタンダードルーム (2-3 人部屋) トイレ / 浴室付き スタンダードルーム (3-4 人部屋) トイレ / 浴室付き

北棟

シンプルツインルーム(2人部屋) トイレ/浴室付き シンプルトリプルルーム(3人部屋) トイレ/浴室付き

和室「竹」 トイレ/浴室付き 定員6名

別館

和室「もみじ」 共同トイレ/大浴場 定員6名 和室「桜」 共同トイレ/大浴場 定員10名

宿泊抜きの参加

宿泊抜きでご参加いただくことは可能です。しかし、会場近くにある民間ホテルはとても限られており、料金も高額な場合があります。さらに、関西セミナーハウス近くに駅やバスの停留所がないため、会場との往復にはタクシーをご利用いただく必要がありますことをご了承下さい。

会場への行き方

飛行機をご利用の場合

伊丹空港(国内線)、関西空港(国際線、一部国内線)へお越しください。

両空港から会場へは、MK スカイゲートシャトルをご予約の上利用されますと、 関西セミナーハウスまで直行で行くことができます。料金は、伊丹空港から 2,900円、関西空港から 3,600円です。

MK スカイゲートシャトルのサイト:

https://shuttle.mk-group.co.jp/kyoto/index.html

新幹線および電車をご利用の場合

遠方から新幹線でお越しの方は、京都駅からタクシーをご利用いただくか(3,000円程度)、京都駅から地下鉄烏丸線へ乗り換えて北山で下車してください。会場の最寄り駅は叡山電鉄の修学院駅ですが、タクシーを探す都合を考慮し、地下鉄北山駅下車をお勧めいたします。



会期中のスケジュール概要 11月2日(木)

15時以降 到着

チェックイン

18時-19時 夕食

19時半-20時半 歓迎と開会の集い

11月3日(金祝) 日中 ワークショップ

夜間 イブニングレクチャー

11月4日 (土) 日中 ワークショップ

夜間 イブニングレクチャー

11月5日(日) 昼食まで ワークショップ

午後&夜間 自由時間

(オプショナルツアー有り、有料)

11月6日(月) 日中 ワークショップ

夜間 イブニングレクチャー

11月7日(火) 日中 ワークショップ

夜間 フェアウェルタ食会とパーティ

11月8日(水) 10時迄に チェックアウト

セミナーハウス内、竹林を背景にした 茅葺きの門

|16|



重要事項

〈必ずご予約前にご一読ください〉

このようなシンポジウムの開催準備は、実務と財政の両面で大規模な事業となります。万一、お申込み人数が最少催行人数に達しなかった場合は、シンポジウム開催が中止になる可能性があります。予めご了承下さい。開催の最終決定は2017年7月14日までにお知らせしますので、皆さまの移動に必要な飛行機/電車等の予約は、開催決定後にしていただきますようお願いいたします。もし早い時点で最少催行人数に達した場合は、早めにお知らせします。

下記のスケジュールに従ってください:

第1段階 2017年3月1日

シンポジウムの申込みは2017年3月1日22時(日本時間)に開始します。 参加費のお支払いにつきまして、日本国内に銀行口座をお持ちの方は、J-LAF 口座へお支払いください。そうでない方のみ、Paypalをご利用ください。お 支払い方法を含めた詳細連絡は、お申込み後に担当者からお送りします。

お申込み後、参加費の内金として10,000円をお支払いいただきます。ご入金が確認された時点で申込みが完了します。なお、この内金につきましては、シンポジウム自体が中止になる場合を除き、返金いたしません。ご了承ください。

各クラスの定員は15名、先着順で受け付けます。

第2段階 2017年6月30日

参加費の残金を、2017年6月30日までにお支払いください。

第3段階 2017年7月14日

このシンポジウムは、2017年6月30日までの時点で最低限50名の申込みがあった場合にのみ開催されます。万一中止となった場合は、内金を含め、お支払額の全額を返金いたします。

従いまして、2017年7月14日までにこちらからお送りする最終決定連絡を 受け取る以前には、飛行機/電車等のご予約をせずにお待ちいただくこと が、とても重要な点となります。



セミナーハウス裏手にある竹林

シンポジウム参加費に含まれるもの:

費用には、ワークショップ受講料、イブニングレクチャー、休憩時のお茶/コー ヒー、朝食、昼食、夕食(日曜の夕食を除く)、施設内での宿泊料金が含まれます。 ご希望の部屋を下記の中からお選びください。グループで参加される場合で宿 泊部屋の同室を希望される方は、申込み時のフォームにその旨ご記入ください。

宿泊施設

1人部屋のご希望はお受けすることができません。予めご了承ください。

南棟

8室 スタンダードルーム (2-3 人部屋) トイレ/浴室付き 160,000円 5室 スタンダードルーム (3-4 人部屋) トイレ / 浴室付き 157,000円

北棟

6室 シンプルツインルーム (2人部屋) トイレ/浴室付き 151,000円 1室シンプルトリプルルーム (3人部屋) トイレ/浴室付き 151,000円

和室「竹」トイレ/浴室付き 定員6名 138,000円

別館

和室「もみじ」 共同トイレ/大浴場 定員6名 132,000円 和室「桜」 共同トイレ/大浴場 定員 10 名 132,000円

宿泊抜きで参加される方や、参加者に同伴される方用の料金もご用意していま すが、運営の都合上、人数に制限があります。ご了承下さい。料金等の詳細に つきましては、久賀真弓宛にお問い合わせください。kuga@j-laf.org

申込み方法

支払い方法

連絡/問い合わせ先

申込みフォームへのアクセスはこちらをクリックしてください:

日本語版 http://j-laf.org/news/4638.html

英語版 http://j-laf.org/event/4491.html

申込みフォームに必要事項を入力(もしくはプリントアウトして記入したもの をスキャン)して、eメール添付で下記宛にお送りください。

久賀真弓:kuga@j-laf.org

申込みフォームの受領後、担当者から e メールにて、希望されたクラスについ ての結果や支払い方法を含めた詳細メールをお送りします。そのメールの受信 から 48 時間以内に内金の 10,000円 (返金不可) をお支払いください。ご入金 が確認された時点で申込みが完了となります。

残金お支払いのお知らせを6月30日までにお送りします。

シンポジウムが開催となるか否かの決定は7月14日までにお知らせします。 早い時点で最少催行人数に達した場合は、この日時を待たずにご連絡します。

参加費のお支払いにつきまして、日本国内に銀行口座をお持ちの方は、J-LAF 口座へお支払いください。そうでない方のみ、Paypalをご利用ください。

シンポジウムに関する質問全般は、シンポジウム運営担当者 久賀真弓宛にお送 りください。kuga@j-laf.org

シンポジウム Facebook ページはこちらをクリックしてください: https://www.facebook.com/writingsymposium/

リックしてください: http://j-laf.org/

NPO 法人ジャパン・レターアーツ・フォーラムのウェブサイトはこちらをク



京都で見かけた書道風看板文字

20

|21|

